

科目名	担当教員名	学期
国際会計実務 International Accounting - Practice	鳥飼 裕一	前期
目的	2016年6月に閣議決定された『日本再興戦略』改訂2016には、国際財務報告基準(IFRS)の連結財務諸表への任意適用企業の拡大促進が施策として織り込まれ、2016年7月に任意適用企業は約121社に達している。また、最近は、金融商品、収益認識、リースなど大きな改訂も行われ、注目されている。本講義では、このようなIFRSを取り巻く状況を踏まえ、IFRSの主要な会計基準の実務適用方法の基礎知識の習得を目標とする。	
概要	IFRSの設定の経緯、概念フレームワークの意義などを理解した上で、個々のIFRSの実務適用方法について設例を豊富に取上げ、学習していく。	
到達目標	IFRSの基礎についての受講者とのディスカッションを深めながら、IFRSの特徴やIFRSの考え方を習得し、実務で生じる様々な取引や事象に対して自己の見解を形成し、適切に対応できる能力を養うことを目標とする。	
成績評価の基準と方法	講義への出席(20%)、理解度チェック(中間、期末)(80%)により評価する。	
履修条件	「国際会計」の単位を取得しているか、「国際会計」に相当する知識を有していること。	
<b>授業計画</b>		
第1週	IFRSを取り巻く状況 ● IFRSを取り巻く内外の状況についての理解を深め、なぜ今、IFRSが必要とされているのかを学習する。	
第2週	概念フレームワーク ● 概念フレームワークが設定された背景や、会計基準設定における意義について学習する。 ● 2015年5月に公表された公開草案「財務報告に関する概念フレームワーク」について学習する。	
第3週	IFRS財務諸表の作成、表示 ● IAS第1号「財務諸表の表示」により、財務諸表の体系及び表示方法を、IFRSの任意適用企業における開示例を参考にして学習する。 ● IAS第8号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」により、会計方針の変更、会計上の見積りの変更、過年度の誤謬の取扱いについて学習する。	
第4週	収益 ● 2014年5月に公表されたIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の概要及び実務適用上のポイントについて学習する。	

<p>第 5 週</p>	<p>棚卸資産及び借入費用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IAS 第 2 号「棚卸資産」における原価の算定方法について、設例により学習する。</li> <li>● IAS 第 23 号「借入費用」における借入費用の原価算入の範囲、原価の算定方法について、設例により学習する。</li> <li>● 有形固定資産の減価償却方法、耐用年数の見積が特に問題となることが多いが、日本の会計実務とどのような違いがあるのかを解説し、IFRS 第 16 号「有形固定資産」について理解を深める</li> </ul>
<p>第 6 週</p>	<p>無形資産及び減損</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IAS 第 38 号「無形資産」における無形資産の定義、いろいろな種類の無形資産の認識について学習する。</li> <li>● IAS 第 36 号「資産の減損」における減損の適用範囲、資産のグルーピング、認識方法、測定方法について学習する。</li> </ul>
<p>第 7 週</p>	<p>金融商品（設定の経緯等、分類及び測定等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IFRS における金融商品会計基準の設定の背景、体系について学習する。</li> <li>● 2014 年 7 月に公表された完全版 IFRS 第 9 号「金融商品」の分類及び測定等について学習する。</li> </ul> <p>理解度チェック（中間）</p>
<p>第 8 週</p>	<p>リース</p>
<p>第 9 週</p>	<p>引当金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IAS 第 37 号「引当金、偶発負債及び偶発資産」における引当金の認識と測定について、特に日本の会計実務との比較を行いながらその特徴的な論点について理解を深める。</li> <li>● リストラ引当金、不利な契約など IAS 第 37 号適用上の重要な論点を上げ、実務適用方法を学習する。</li> </ul>
<p>第 10 週</p>	<p>従業員給付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IAS 第 19 号「従業員給付」により、確定給付型の退職金制度の会計処理を中心に、日本の会計基準との相違を踏まえて学習する。</li> <li>● 短期従業員給付、長期従業員給付及び解雇給付の取扱いについて、設例により理解を深める。</li> </ul>
<p>第 11 週</p>	<p>税効果会計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● IAS 第 12 号「法人所得税」における税効果会計について、日本の税効果会計の実務を踏まえ学習する。</li> <li>● 税効果会計における重要な論点である繰延税金資産の回収可能性についての IFRS の考え方を学習する。</li> </ul>

第 12 週	連結（1） ● IFRS 第 10 号「連結財務諸表」における連結の範囲（支配の原則の考え方）の考え方を学習し、IFRS の連結財務諸表の作成方法についての理解を深める。
第 13 週	連結（2） ● IFRS 第 10 号「連結財務諸表」における特別目的事業体（S P E）の連結、投資企業の会計処理など、連結の特殊論点を学ぶ。
第 14 週	企業結合 ● IFRS 第 3 号「企業結合」における取得法、企業結合後の持分の変動の会計処理などの特徴的な論点を学習し、IFRS の企業結合会計について理解を深める。
第 15 週	外貨換算会計 ● IAS 第 21 号「外国為替レート変動の影響」における「機能通貨」の考え方の習得を目標にする。 ● 機能通貨の決定方法について、設例により理解を深める。 理解度チェック（期末）
テキスト 参考書等	【テキスト】 毎回、講義時にレジюмеおよび資料を配布する。 【参考書】 International Financial Reporting Standards,IASB,2015 『国際財務報告基準（IFRS）2015』（IFRS 財団編 企業会計基準委員会・公益財団法人財務会計基準機構 監訳）
その他 特記事項	毎回、授業において演習（計算問題を含む）を行う予定であり、正解とならなかった場合については次回までに復習を行うこと想定している。